

# 1. 測定検査等事業

## 1) 微生物グループ

### (1) 感染症発生動向調査（患者情報）

感染症発生動向調査は、感染症の発生状況を把握するために行われている調査である。「感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下、感染症法）の第三章「感染症に関する情報の収集と公表」の第12条から第16条に基づいて実施されており、詳細については厚生労働省の「感染症発生動向調査事業実施要綱」に定められている。これを受けて、和歌山県では「和歌山県感染症発生動向調査事業実施要綱」を策定している。対象となる感染症は、感染症法施行令および施行規則の一部改正により113疾病（一～五類感染症，新型インフルエンザ等感染症，感染症法14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）となった。当センターでは感染症の患者報告数集計とその解析を担当している。

表1-1. 疾病別保健所別報告数（2024年）

感染症名		和歌山市	海 南	岩 出	橋 本	湯 浅	御 坊	田 辺	新 宮	新 宮 (串本支所)	県 計										
二類	結核	57	9	23	12	8	8	20	8	1	146										
三類	腸管出血性大腸菌感染症	11	1	1	1	4	2	4	3	0	27										
四類	E型肝炎	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2										
	A型肝炎	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2										
	重症熱性血小板減少症候群	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2										
	つつが虫病	0	0	0	0	0	1	5	0	0	6										
	日本紅斑熱	9	0	5	5	0	1	2	6	6	34										
	ボツリヌス症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1										
	レジオネラ症	6	1	0	3	0	0	3	0	0	13										
	アメーバ赤痢	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3										
	ウイルス性肝炎	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2										
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5	0	0	1	0	0	3	0	0	9										
全数報告	急性脳炎	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2										
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4										
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	0	1	0	0	1	2	0	0	7										
	後天性免疫不全症候群	5	1	0	0	0	0	0	0	0	6										
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3										
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1										
	侵襲性肺炎球菌感染症	11	1	1	1	0	1	9	0	0	24										
	水痘（入院例）	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2										
	梅毒	18	0	15	2	6	2	7	5	0	55										
	播種性クリプトコックス症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1										
五類	破傷風	3	0	0	0	0	0	0	1	0	4										
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3										
	百日咳	6	9	8	0	0	0	3	0	0	26										
	計	149	23	56	25	20	17	63	25	7	385										
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	(15)	5809	(3)	1305	(6)	1607	(6)	1697	(4)	857	(3)	694	(7)	1662	(3)	986	(1)	41	(48)	14658
	RSウイルス感染症	(9)	446	(2)	54	(4)	264	(4)	240	(2)	54	(2)	86	(3)	197	(2)	361			(28)	1702
	咽頭結膜熱	(9)	183	(2)	64	(4)	71	(4)	31	(2)	5	(2)	71	(3)	79	(2)	27			(28)	531
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	(9)	886	(2)	247	(4)	364	(4)	233	(2)	71	(2)	78	(3)	709	(2)	284			(28)	2872
	感染性胃腸炎	(9)	3454	(2)	460	(4)	739	(4)	113	(2)	140	(2)	73	(3)	383	(2)	635			(28)	5997
	水痘	(9)	104	(2)	6	(4)	18	(4)	21	(2)	9	(2)	8	(3)	27	(2)	3			(28)	196
手足口病	(9)	1987	(2)	318	(4)	936	(4)	362	(2)	633	(2)	226	(3)	1179	(2)	332			(28)	5973	
定点把握・週報	伝染性紅斑	(9)	19	(2)	2	(4)	0	(4)	1	(2)	5	(2)	2	(3)	2	(2)	0			(28)	31
	突発性発疹	(9)	188	(2)	7	(4)	87	(4)	10	(2)	15	(2)	33	(3)	39	(2)	22			(28)	401
	ヘルパンギーナ	(9)	88	(2)	54	(4)	128	(4)	48	(2)	35	(2)	25	(3)	62	(2)	22			(28)	462
	流行性耳下腺炎	(9)	13	(2)	4	(4)	1	(4)	4	(2)	9	(2)	3	(3)	5	(2)	6			(28)	45
	急性出血性結膜炎	(3)	3											(1)	4					(4)	7
	流行性角結膜炎	(3)	43											(1)	1					(4)	44
	細菌性髄膜炎	(3)	3			(1)	4	(2)	0	(1)	0	(1)	0	(2)	0	(1)	0			(11)	7
	無菌性髄膜炎	(3)	12			(1)	3	(2)	0	(1)	0	(1)	0	(2)	0	(1)	0			(11)	15
	マイコプラズマ肺炎	(3)	163			(1)	71	(2)	14	(1)	0	(1)	36	(2)	15	(1)	14			(11)	313
	クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	(3)	0			(1)	0	(2)	2	(1)	0	(1)	0	(2)	0	(1)	1			(11)	3
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	(3)	3			(1)	1	(2)	0	(1)	0	(1)	1	(2)	0	(1)	0			(11)	5	
新型コロナウイルス感染症	(15)	3642	(3)	2679	(5)	1315	(6)	1737	(4)	976	(3)	532	(6)	1385	(3)	1041	(1)	154	(46)	13461	
計		17046		2521		5609		4513		2809		1868		5749		3734		195		44044	
定点把握・月報	性器クラミジア感染症	(4)	135			(1)	11	(1)	15					(1)	28					(7)	189
	性器ヘルペスウイルス感染症	(4)	59			(1)	9	(1)	2					(1)	17					(7)	87
	尖圭コンジローマ	(4)	75			(1)	1	(1)	3					(1)	7					(7)	86
	淋菌感染症	(4)	45			(1)	4	(1)	10					(1)	17					(7)	76
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	(3)	136			(1)	8	(2)	8	(1)	0	(1)	22	(2)	36	(1)	13			(11)	223
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	(3)	3			(1)	0	(2)	0	(1)	0	(1)	0	(2)	1	(1)	0			(11)	4
	薬剤耐性緑膿菌感染症	(3)	0			(1)	0	(2)	1	(1)	0	(1)	0	(2)	0	(1)	0			(11)	1
計		453				33		39		0		22		106		13				666	

( ) は定点医療機関数

2024 年（1～12 月）の感染症発生動向調査による保健所別報告数は表 1-1 のとおりであった。2024 年は、二類感染症 1 疾病、三類感染症 1 疾病、四類感染症 7 疾病、五類感染症（全数把握対象）16 疾病、五類感染症（定点把握対象）26 疾病、計 51 疾病の報告があった。二類から五類（全数把握対象）感染症の患者報告数は、二類感染症 146 名（結核のみ）、三類感染症 27 名（腸管出血性大腸菌感染症のみ）、四類感染症 60 名（E 型肝炎 2 名、A 型肝炎 2 名、重症熱性血小板減少症候群 2 名、つつが虫病 6 名、日本紅斑熱 34 名、ボツリヌス症 1 名、レジオネラ症 13 名、）、五類感染症（全数把握対象）152 名（アメーバ赤痢 3 名、ウイルス性肝炎 2 名、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 9 名、急性脳炎 2 名、クロイツフェルト・ヤコブ病 4 名、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 7 名、後天性免疫不全症候群 6 名、侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 名、侵襲性髄膜炎菌感染症 1 名、侵襲性肺炎球菌感染症 24 名、水痘（入院例）2 名、梅毒 55 名、播種性クリプトコックス症 1 名、破傷風 4 名、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 3 名、百日咳 26 名）であった。二類から五類（全数把握対象）感染症の報告数合計は、2023 年は 346 名であったが、2024 年は 385 名に増加した。

五類感染症（定点把握・週報）については、計 44,044 名の患者報告があり、2023 年（44,339 名）より減少した。なお、新型コロナウイルス感染症については、13,461 名の患者が報告された。五類感染症（定点把握・月報）については、計 666 名の患者報告があり、2023 年（688 名）から減少した。STD 定点把握では性器クラミジア感染症、基幹定点把握ではメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の患者報告数が最も多かった。

## (2) 行政検査

令和 6 年度に実施した行政検査の内容および検査数は表 1-2 のとおりであった。

表 1-2. 行政検査の内容および検査数

依 頼 者	内 容	検 体 数	延検査数
健康推進課	感染症発生動向調査事業		
	病原体の検出	694	928
	腸管出血性大腸菌感染症の検査	46	46
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の検査	3	3
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症の検査	0	0
	つつが虫病及び日本紅斑熱診断検査	90	143
	感染症流行予測調査事業		
生活衛生課	ポリオ感染源調査（環境水からのウイルス分離）	12	72
	食中毒（疑いを含む）発生に伴う病原体の検査	189	550
	畜水産物中の残留抗生物質の検査	120	120
	流通食品の腸管出血性大腸菌		
	O26・O103・O111・O121・O145・O157の検査	40	240
	流通食品の腸炎ビブリオの検査	20	20
	流通食品のサルモネラ属菌の検査	40	40
	流通食品のカンピロバクターの検査	20	20
	生食用かきの成分規格試験および汚染実態調査	10	40
	生めん類の汚染実態調査	10	30
	アイスクリーム類の汚染実態調査	40	80
	浅漬の汚染実態調査	10	20
	食鳥処理場の汚染実態調査	76	76
	井戸水の検査	24	48
	浴槽水等のレジオネラ属菌の検査	54	54
	ネコの抗SFTSウイルス抗体保有調査	199	199
環境管理課	公共用水域の水質調査	84	84
計		1781	2813

a) 感染症発生動向調査事業

(a) 病原ウイルスの検出 (表 1-3)

県内のウイルス感染症の動向を把握するため、医療機関等で採取された患者の臨床材料 695 検体を用いてウイルスの検出を行った。579 検体から計 20 種類のウイルスを検出した。

表 1-3. 感染症発生動向調査病原体検出状況 (令和 6 年度, 受付月別)

	R6年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年 1月	2月	3月	合 計
麻疹	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6
Measles virus													0
風疹	0	0	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	5
Rubella virus													0
重症熱性血小板減少症候群	1	3	0	1	1	3	5	0	2	0	1	2	19
SFTS virus		1											1
E型肝炎		2			2								4
hepatitis E virus		1											1
急性弛緩性麻痺							5						5
Enterovirus													
急性脳炎								1					1
Enterovirus													
Parechovirus													
Influenza virus													
インフルエンザ	4	1	0	2	0	3	0	3	13	11	4	6	47
Influenza virus A(H1)pdm	3			1		3		2	12	5	1	2	29
Influenza virus A(H3)				1				1		6		1	9
Influenza virus B(Yamagata)													
Influenza virus B(Victoria)	1								1		1	3	6
感染性胃腸炎	10	32	4						7	15	5	28	101
Norovirus GI													0
Norovirus GII	10		3						6		5	18	42
Sapovirus									1				1
Rotavirus										4			4
手足口病		3	12					2	1				18
Enterovirus (CV-A6)		3	6										9
Enterovirus (CV-A16)			3					1	1				5
Rhinovirus			2										2
Adenovirus 2			1										1
Enterovirus (EV-A71)			1					1					2
無菌性髄膜炎			1				5	1			1		8
Enterovirus													
Mumps virus							1						1
ヘルパンギーナ					2								2
Enterovirus (CV-A6)					1								1
RSウイルス感染症	10										1		11
RS virus subgroup A	5												5
RS virus subgroup B											1		1
流行性角結膜炎									1				1
Adenovirus 2									1				1
新型コロナウイルス感染症	32	18	27	87	92	24	32	6	12	39	43	53	465
SARS-CoV-2	32	18	27	85	90	24	31	6	12	39	41	51	456
その他							2						2
Adenovirus 64							2						2
合 計 — 検 体 数	59	60	45	94	99	31	49	13	36	65	55	89	695
病原体検出数	51	23	43	87	91	27	34	11	34	54	49	75	579

(b) 新型コロナウイルスのゲノム解析 (表 1-4)

医療機関等で採取された SARS-CoV-2 陽性検体の一部について次世代シーケンサーを用いたゲノム解析を行った。結果は次のとおりであった。

表 1－4．新型コロナウイルスゲノム解析結果（令和 6 年度，検体採取月別）

採取月 lineage	R6 年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	R7 年 1 月	2 月	3 月	合計
HK. 3. 2												1	1
JD. 1. 1	1												1
JN. 1	4												4
JN. 1. 1. 1	1												1
JN. 1. 32	1												1
JN. 1. 39	1												1
JN. 1. 4. 5	2												2
JN. 1. 4. 6	1												1
JN. 1. 62				1									1
JN. 1. 67. 1						1							1
JN. 1. 7	1												1
JN. 1. 7. 7	1												1
JN. 18	2												2
JN. 19	1												1
KP. 2. 2	1												1
KP. 2. 3			1	1									2
KP. 3			2										2
KP. 3. 1				8	7								15
KP. 3. 1. 1				3		2	1	2	1	7	3	2	21
KP. 3. 1. 3			1										1
KP. 3. 1. 4			2	1									3
KP. 3. 1. 6				1									1
KP. 3. 2		1			1						2	1	5
KP. 3. 2. 3					1								1
KP. 3. 3		5	9	53	30	17	3	1	3	6			127
KP. 3. 3. 1				1		2				1	2		6
KP. 3. 3. 3			1	11	13	7	2			2			36
KP. 3. 3. 8										1			1
KP. 3. 4				1									1
KW. 1. 1			1										1
LP. 8. 1									3	1			4
LP. 8. 1. 1											1	1	2
LW. 1				1									1
MA. 1				1									1

MC. 1									1		1	2	4
MC. 1. 1. 1											1		1
MC. 10. 1								1					1
MC. 11						1							1
MC. 13				1	1								2
MC. 17. 1											1		1
MC. 2								1			1		2
MC. 21. 1											3		3
MC. 24											1	1	2
MC. 39												1	1
MC. 6						1							1
MC. 9					1	1							2
ML. 1				3	2					2			7
MV. 1. 1								1					1
NA. 1									1				1
NB. 1										2			2
NF. 1											1		1
NL. 4							1						1
XDQ		1											1
XDQ. 1	12	3	1	2								1	19
XDQ. 1. 1		1											1
XDR	1												1
XDV. 1. 7					1								1
XEC							2	2	2	12	13	7	38
XEC. 1						1						1	2
XEC. 14										1			1
XEC. 2										2	1	1	4
XEC. 29										2			2
XEC. 4										3	5	1	9
XEC. 4. 1											2		2
XEC. 5										3			3
XEK. 1											2		2
合 計	30	11	18	89	57	33	9	8	11	45	40	20	371

(c) 病原細菌の検出

医療機関等で検出された腸管出血性大腸菌の菌株（疑いを含む）および患者・接触者等の便検体 46 検体について検査を行った結果、腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT1・VT2) を 4 例、O157:H7 (VT2) 6 例、O157:H- (VT1・VT2) 1 例、O146:H- (VT2) 2 例および Og168 (VT2) 1 例を確認した。

(d) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の検査

CRE 感染症の届出があった患者から分離された菌株 3 検体について検査を行った結果、カルバペネマーゼ遺伝子保有菌株を 1 例確認した。

(e) つつが虫病および日本紅斑熱診断検査（表 1-5）

医療機関から依頼のあった症例について、検査診断を目的として遺伝子増幅法、間接蛍光抗体法による検査を行った。日本紅斑熱 35 例、つつが虫病 3 例を確認した。

表 1-5. つつが虫病および日本紅斑熱検査状況

疾病名	保健所	検査症例数	陽性症例数
日本紅斑熱	和歌山市保健所	5	4
	岩出保健所	15	11
	橋本保健所	8	5
	海南保健所	1	0
	御坊保健所	5	1
	湯浅保健所	1	0
	田辺保健所	13	2
	新宮保健所串本支所	10	6
	新宮保健所	9	6
	合計	67	35
つつが虫病	和歌山市保健所	1	0
	岩出保健所	3	0
	橋本保健所	6	0
	海南保健所	0	0
	御坊保健所	0	0
	湯浅保健所	0	0
	田辺保健所	10	3
	新宮保健所串本支所	3	0
	新宮保健所	0	0
	合計	23	3

b) 感染症流行予測調査事業（表 1-6）

ポリオウイルスの侵入監視を目的として環境水からのウイルス分離を試みた。毎月 1 回、伊都浄化センターにおいて流入下水を採取し調査を行った結果、ポリオウイルスは検出されなかった。他のウイルス検出結果については表 1-6 のとおりであった。

表 1－6．ポリオ感染源調査ウイルス分離結果（環境水からの分離）

	R6年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年 1月	2月	3月
Reovirus				○								
Coxsackievirus B3							○	○	○			○
Enterovirus A71							○					
Echovirus 11								○	○	○		
Adenovirus 2										○		

注) ○印は分離されたウイルス

#### c) 食中毒発生に伴う病原体の検査（表 1－7）

食中毒事例 3 事例について検査を実施した。検査結果から、黄色ブドウ球菌 1 事例、ノロウイルス GII 2 事例を原因病原体と特定した。

表 1－7．食中毒（疑い）発生事例

番号	保健所	原因施設	原因病原体	依頼日	検体種別	検査項目	陽性数／検体数	備 考
1	御坊	飲食店	ノロウイルス GII	R6. 4. 15	便（従事者）	ノロウイルス，セレウス菌，ウエルシュ菌	2/9	
				R6. 4. 15	食品	ノロウイルス，セレウス菌，ウエルシュ菌	0/19	
				R6. 4. 15	拭き取り	ノロウイルス，セレウス菌，ウエルシュ菌	0/12	
				R6. 4. 16	便（喫食者）	ノロウイルス，セレウス菌，ウエルシュ菌	9/10	
				R6. 4. 16	便（従事者）	ノロウイルス，セレウス菌，ウエルシュ菌	1/4	
2	湯浅，御坊	製造所	黄色ブドウ球菌	R6. 7. 9	便（喫食者）	セレウス菌	0/2	
				R6. 7. 9	便（従事者）	セレウス菌	0/1	
				R6. 7. 9	食品	黄色ブドウ球菌，セレウス菌	4/4	
				R6. 7. 9	拭き取り	黄色ブドウ球菌，セレウス菌	0/6	
				R6. 7. 9	菌株（喫食者）	黄色ブドウ球菌	1/2	
				R6. 7. 10	便（喫食者）	セレウス菌	0/1	
				R6. 7. 11	菌株（喫食者）	黄色ブドウ球菌	1/1	
				R6. 7. 11	菌株（従事者）	黄色ブドウ球菌	1/1	
3	田辺	飲食店	ノロウイルス GII	R7. 3. 4	便（喫食者）	ノロウイルス サルモネラ，腸管出血性大腸菌，カンピロバクター	6/6	
				R7. 3. 4	便（従事者）	ノロウイルス サルモネラ，腸管出血性大腸菌，カンピロバクター	3/3	
				R7. 3. 4	拭き取り	ノロウイルス	0/21	
				R7. 3. 7	便（喫食者）	ノロウイルス	5/5	

#### d) 食品衛生監視指導計画に係る食品等の検査

県内で産出および流通する食品等の安全を確保するために定めた「和歌山県食品衛生監視指導計画」に基づき，以下の検査を実施した。

##### (a) 畜水産物中の残留抗生物質の検査

食肉，鶏卵，養殖魚介類および蜂蜜，計 120 検体の検査を行った結果，すべてにおいて抗生物質（テトラサイクリン系，マクロライド系，アミノグリコシド系）は検出されなかった。

##### (b) 流通食品の腸管出血性大腸菌（O26・O103・O111・O121・O145 および O157）汚染実態検査

牛レバー，牛肉臓（胃，腸），そうざい，カット野菜，サラダ，計 40 検体の検査を行った結果，

すべてにおいて腸管出血性大腸菌（O26・O103・O111・O121・O145 およびO157）は検出されなかった。

(c) 生食用鮮魚介類の成分規格検査

生食用鮮魚介類計 20 検体の成分規格検査（腸炎ビブリオ）を行った結果、すべて成分規格に適合した。

(d) 流通食品のサルモネラ属菌汚染実態調査

食肉、鶏卵および生洋菓子、計 40 検体の検査を行った結果、6 検体（いずれも鶏肉）からサルモネラ属菌が検出された。

(e) 流通食品のカンピロバクター汚染実態検査

鶏肉 20 検体の検査を行った結果、5 検体からカンピロバクター・ジェジュニが、1 検体からカンピロバクター・コリが検出された。

(f) 生食用かきの成分規格検査およびノロウイルス汚染実態調査

10 検体について成分規格検査（細菌数、大腸菌、腸炎ビブリオ）、およびノロウイルスの検査を行った結果、すべての検体が成分規格の基準を満たし、ノロウイルスの検出も認められなかった。

(g) 生めん類の汚染実態調査

10 検体について生菌数、大腸菌（ゆでめんの場合は大腸菌群）、黄色ブドウ球菌の検査を行った結果、生菌数は生めん 3,000,000cfu/g 以下、ゆでめん 100,000cfu/g 以下であり、黄色ブドウ球菌は検出されなかったが、1 検体から大腸菌が検出された。

(h) アイスクリーム類および氷菓の汚染実態調査

40 検体について細菌数、大腸菌群の検査を行った結果、1 検体から大腸菌群が検出された。

(i) 浅漬の汚染実態調査

10 検体について大腸菌、リステリア・モノサイトゲネスの検査を行った結果、すべて陰性であった。

(j) 食鳥処理場の汚染実態調査

8 カ所の食鳥処理場の食鳥および環境の拭き取り物 76 検体についてカンピロバクターの検査を行った結果、7 検体からカンピロバクター・ジェジュニが検出された。

e) 災害時活用井戸の水質検査

災害時に飲用井戸として活用できる候補井戸を見出すため、24 検体について一般細菌、大腸菌の検査を行った。3 検体が一般細菌、2 検体が大腸菌、9 検体が一般細菌および大腸菌の項目で水質基準に適合しなかった。

f) 浴槽水等のレジオネラ属菌の検査

保健所から依頼のあった浴槽水等 54 検体について検査を行った。1 検体からレジオネラ・ニューモフィラ SG1 および SG5 が、7 検体からレジオネラ・ニューモフィラ SG1 が、1 検体からレジオネラ・ニューモフィラ SG3 および SG 型別不能株が、1 検体からレジオネラ・ニューモフィラ SG3 およびその他のレジオネラ属菌が、2 検体からレジオネラ・ニューモフィラ SG3 が、2 検体からレジオネラ・ニューモフィラ SG5 が、1 検体からレジオネラ・ニューモフィラ SG6 が、2 検体からその



他のレジオネラ属菌が検出された。

g) 野良猫における抗 SFTS ウイルス抗体保有状況調査

県内における SFTS ウイルスの浸淫状況を調べるため、野良猫 199 匹について間接蛍光抗体法により血液中の抗 SFTS ウイルス抗体の保有状況を調べた。いずれも抗体は検出されなかった。

h) 公共用水域の水質調査

公共用水域における水質環境基準の達成状況を把握するため、県内の環境基準指定水域のうち 4 水域 7 地点の河川水 84 検体について、大腸菌の検査を行った。環境基準の類型が定められている 6 地点 72 検体の内、10 検体で基準を超過した。

(3) 依頼検査

令和 6 年度に実施した依頼検査は表 1－8 のとおりであった。

表 1－8. 依頼検査

種 別	検体数	検査項目	検査数
食 品	19	一般生菌数	18
		大腸菌群（定性）	13
		大腸菌群（定量）	0
		大腸菌	2
		真菌数	8
		耐熱菌	0
		黄色ブドウ球菌	5
		腸炎ビブリオ	2
		サルモネラ	3
計			51

(4) GLP（業務管理基準）の実施

外部精度管理

厚生労働省が実施する令和 6 年度外部精度管理事業では、「新型コロナウイルスの次世代シーケンシング（NGS）による遺伝子の解読・解析」，「麻しん・風しんウイルスの核酸検出検査」および「コレラ菌の同定検査」に，一般財団法人食品薬品安全センター 秦野研究所が実施する令和 6 年度食品衛生外部精度管理調査では「一般細菌数測定検査」および「黄色ブドウ球菌定量検査」，「サルモネラ属菌検査」の項目に，UKHSA が実施する外部精度管理ではレジオネラ属菌の項目に参加した。結果はいずれも良好であった。